会長就任のごあいさつ

三菱電機㈱　岡　久雄

本年はＯＲ学会創立33周年にあたります．創立当時と比べ世の中は大きく変り，今日政治，経済，文化あらゆる面がグローバル化の大きな変革の波にさらされています．企業経営の面でも，ますます複雑化するシステムの科学的運営に従来以上にＯＲを必要とする時代に突入してゆくように思われます．

このような時期に，前会長森村英典先生の後を継いで当学会の会長として選任されましたことは私にとって大変光栄であると同時にその責任の重大さを痛感する次第であります．

さて，企業経営の本質的な力はつねに変化への対応力であります．いま企業は事業分野や規模の大小にかかわらずグローバル化に伴なう市場ニーズや産業構造の変化に対し，いかに迅速に効果的に経営戦略を適合させてゆくかについて大変努力しております．

ふり返ってみますと，第二次大戦後の経済再建，そして高度成長の中で企業運営にはさまざまな科学的手法がとり入れられてきました．中でもわが国の製造業ではＱＣやＩＥなどが着実に定着し，今日世界最強の製品競争力をもつに至っております．それらの原点は経営運営のＯＲであり，今日までＯＲの果してきた理論的成果や実戦的成果は広く社会に浸透し貢献していると言えましょう．

しかしながら今日，ややもすればＩＥやＱＣなどの実戦的手法の方が高く評価され，ＯＲそのものの社会的貢献という側面では以前に比べその認識が薄く，その評価も忘れられがちなのは誠に残念であります．

前述のように，これからの企業戦略は，グローバル化の中で，競争，協調そして貢献の調和をうまくとりながら，変化しつつある市場ニーズや技術シーズの多くの要素を織りこんだ，より知的なシステム的運営方策にもとづくものでなければなりません．

一方，コンピュータシステムはこれまでも科学的運営方策に対し数値的な解析や判断に大きな支援を果してきましたが，これからはより人間の思考に似た，たとえば推論機能や学習機能をもつ高機能なコンピュータが科学的運営方策の強力な支援ツールとして登場してまいります．

このような状況をふまえ，今後ＯＲの果す役割はますます増大するというよりも，むしろこれから本当にＯＲを必要とする時代に入っていくであろうと思われます．

昨年のオペレーションズ・リサーチ誌の目次を見ても，今日の時代変革に対する大変重要な課題が数多く掲載されています．

当学会では，先に創立30周年を記念した長期計画の中で「公的地位の確保」「研究活動の充実」「普及活動の強化」を学会活性化の３本柱としています．これらの達成のため，学会員同志が本音で話し合える風通しのよいネットワークをつくりながら頑張っていきたいものと念願いたします．

おわりに，会員の皆様のご協力とご支援をお願いして，会長就任の挨拶といたします．

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．